



1.早朝の千頭駅前、ラジオ体操に参加する子供たち 2.子供の姿に笑顔の中原康夫さん(左) 3.スタンプを押してあげる吉川有紀さん

始まりは… 「ラジオ体操」

懐かしい夏休みのラジオ体操の風景。
かつては各地区で行われていた夏の風物詩、
皆さんの地区では、まだ行われていますか？

「イチ、ニツ、サン、シツ…」
早朝の千頭駅、朝日に照らされた
駅前の広場に、軽快なラジオ体操の
声が響きます。かつてはどの地区で
も行われていたラジオ体操。今では、
ほとんど目にすることはなくなりま
した。ですがここ千頭では、絶える
ことなく続けられ、今年も子供たち
も参加するようになりました。
ラジオ体操を終えた子供たちが列
を作り始めました。お目当てはやは
りスタンプ。「スタンプを集めると賞
品がもらえるんだって」と無邪気な子供
たちに、大人たちも笑顔になりました。

「子供の姿を見るのは何年ぶりか
なあ」

中原康夫さんはスタンプを待つ子供

たちの様子を見ながらつぶやきます。

「駅前は、トーマス号の人気のおか

げで、運行日はずいぶんにぎわうけど

それ以外はめっきり。寂しいよね」。

数年前、駅周辺の商店が集まり結

成された「千頭駅前を考える会」。当

時会長を務めていた中原さんは、ト

ーマス号がもたらすにぎわいに喜びな

がらも、いつまで人気は続くのか、

トーマス号が運行しない時期の閑散

とした駅前の姿に、強い危機感を抱い

ていました。

「このままトーマス号の人気の頼っ

ているばかりではダメだね。自分

たちでできることを始めていかない

と。ただ、何をしたらいいかわから

ない。固い頭で知恵を絞るけど、良

いアイデアが生まれない。外の人か

ら見て魅力的な地域にしていけるこ

がなにより大切だと思う。若い世代

で、良い意味でこの町に染まってい

ない人たちの発想と行動力が、本当

に必要なと感じているよ」。

そう話す中原さんの視線の先に

は、子供たちと笑顔で話す一人の女

性の姿がありました。



【特集】移住者がもたらした地域の活気 千頭に吹く新しい

風

大井川鐵道の終着駅である千頭駅。今、駅周辺がこれまでにないほどのにぎわいを見せています。
大井川鐵道トーマス号による人気はもちろんですが、それ以外の新しい「にぎわい」が住民の間に生まれ始めています。
本号では、地域に新しいにぎわいを生み出そうと活動するグループを紹介しながら、彼らの想いに迫っていきます。

「今日も来てくれたんだ！」

そう声を弾ませてスタンプを押し

ているのは、静岡文化芸術大学4年

生の吉川有紀さん。ラジオ体操に子

供たちを呼び込んだ立役者です。

吉川さんは、今年の4月から、中小

企業の経営者支援や、地域活性化事

業に取り組んでいる(株)経営参謀静

岡オフィスのインターンとしてこの

町で働いています。

「きっかけは大学のゼミでした。

少子高齢化が進む地域に、新卒移住

者と呼び込んで、どう地域を活性化さ

せるかをテーマに取り組んでしまし

た。この町を何度も訪れるうちに、

いつそのこと移住してみようかな、と

考えるようになっていましたね」とは

にかみです。

4月、千頭駅前を考える会の総会

で吉川さんに出会った中原さんは、そ

の人の顔を見込んで、吉川さんを駅前を

考える会の会長に抜きました。

「吉川さんの抜群の行動力と天真ら

んまんな性格は、きっと地域の人たち

に受け入れてもらえるはず。駅前を

劇的に変えていくことは簡単じゃな

いけど、彼女と一緒に、少しずつ盛り

上げて行きたいね」と吉川さんが巻き

起こす新しい風々に期待を込めて話